

全国病児保育協議会のホームページ <http://www.byoujihoiku.ne.jp>



病児保育協議会ニュース



会長メール 協議会発足 10 周年を迎えて

全国病児保育協議会会長 藤本 保

10 周年記念事業が着々と進められています。これもひとえに会員皆様のご尽力の賜です。去る 10 月 27 日、28 日に行われました記念講演会、記念式典ならびに研修会は庄司先生、宮田先生を中心とした関東の実行委員各位の綿密かつ着実な企画と行動力で見事に運営され盛会裏に終了しました。大成功を皆様と共に喜び、感謝の意を表したいと思います。あとは記念誌作成に向けて改めて皆様にご協力をお願いいたします。

この 10 年を振り返って特筆すべき業績は、帆足英一先生監修による病児保育マニュアルおよび改訂になった新病児保育マニュアルの上梓でしょう。これにより病児保育を体系化することが出来、標準化への方向性が示されました。ま

た、この本の売上は全国病児保育協議会の運営に非常に大きく貢献してくれています。名誉会長の保坂智子先生が仰ったように、帆足先生は正に本協議会の育ての親です。この 10 年間の帆足先生のご功績に対して感謝状を贈ることを役員会で決定しました。

これからの私たちの課題は、実

施している病児保育を客観的に評価し質の向上を図ることです。現在、調査研究委員会で自己評価表を作成しています。自己点検をした後には、第三者による評価も必要となるでしょう。研修会を充実させ研鑽に励みたいと存じます。施設からのご協賛も是非お願い申し上げます。

当協議会顧問である帆足英一先生のこれまでの功績に対して、1 月に開かれた常任協議委員会で、藤本保会長より感謝状を贈呈しました。



感謝状を授与される帆足英一先生

第 10 回研修会を開催して

全国病児保育協議会 10 周年記念研修会 会長 青山学院大学教授 庄司順一

全国病児保育協議会の第 10 回という大きな節目になる研修会を青山学院大学で開催させていただきました。幸い天候にも恵まれ、全国各地から約 310 名の参加を得ることができました。

本協議会は発足当初から研修を重視してきました。それはいうまでもなく、病児保育という新しい領域を開拓、実践し、発展させていくためには、保育、看護、医療などの専門家である皆様方すべてが、自らの専門性をふまえ、さらに新たな知識、理論、実践のための方法を身につけなければならないからです。「保育看護」といわれる新たな専門性を身につけること

によってのみ、病児とその保護者に、安心できる、質の高い病児保育を提供することができるのです。

今回は記念すべき研修会であるので、私と藤本会長のあいさつに続いて、平山宗宏先生（日本子ども家庭総合研究所長）、帆足英一先生（都立母子保健院長）、豊永せつ子先生（社会福祉法人五豊会理事長）にご講演をお願いしました。そのあと、大学に隣接した青学会館において、10 周年記念式典および懇親会を開催いたしました。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長の岩田喜美枝氏、小児科関連諸学会の代表の方々をはじめ、多くの

ご来賓にご出席を賜り、盛大に式典を挙行することができました。

第 2 日は、例年よりも多い 6 つの分科会を用意し、実践報告にもとづく討議を行い、最後に全体会での分科会報告をもって、2 日間の研修会を無事終了することができました。

本研修会は実行委員会方式で企画、運営しましたが、中でも宮田章子先生をはじめとする実行委員会事務局の方々には裏方としてたいへんな作業をしていただきました。また、懇親会は池田奈緒子先生にご担当いただきました。心から感謝申し上げます。

10周年記念研修会
 ~ 第1日目記念講演会より ~
 各講演のまとめ

特

集

特別講演
「母子保健の動向 - 健やか親子21 -
 恩賜財団母子愛育会日本こども家庭総合研究所
 所長 平山 宗宏先生

特別講演座長まとめ
全国病児保育協議会
 会長 藤本 保

平山先生は日本における母子保健の第一人者であり、日本の母子保健水準を世界に冠たるものに成し遂げられた功績により数々の表彰を受けています。「健やか親子21」の概要が、検討会の座長をされた先生から、その具体的指針である4本の柱がまとめられる過程で検討された事等を踏まえて、レジュメに沿って紹介され、理念と活動の方向性が説明されました。

わが国は、少子化と高齢化の進行により世界の超高齢社会の到来が見込まれています。病気、寝たきり、痴呆の増加を抑え、いかにして健康で長生きをするか、生きがいを持って自立した生活をするか、21世紀の健康づくりの国民運動指針として「健康日本21」が、そしてその母子保健版ともいえる「健やか親子21」が20世紀末に当時の厚生省によって策定されました。

従来、役所が予算を取って事業を行うと言うやり方であったが、国民運動として、例えば歯の保健ではちまるにいまる(8020)運動(80歳で20本自分の歯を持つていよう)のような、具体的目標を示し、住民に一番近い所である市町村が中心となり、国民自らが行動することにより目標を達成すると言うやり方で、これを役所が後押しすると言うものです。

「健康日本21」が主として生活習慣病の予防、健診、対策であるのに対して、「健やか親子21」は生活習慣病以外の親子を巡る全ての問題に対して10年後の目標値を設定し、ヘルスプロモーションの考え方を取り入れています。その四本の柱は、1)思春期の保健対策の強化と健康教育の推進、2)妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援、3)小児保健医療水準を維持向上させるための環境整備、4)子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減です。これらの項目について、今後我々がどのように取り組

むべきか、全体の問題と解決すべき課題、方針が示されました。

「ヘルスプロモーション」と言うのは、自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスのことで、病気にならないように健康に気をつける一次予防に力を入れることが重要であることを強調されました。例えば、児童虐待防止では、保育所や病児保育に於いて親子関係で気になることを発見すれば、あらゆる可能な援助を行い、問題が生じる前に対策を講じることが一次予防となります。これからの母子保健は育児支援が最も重要で、保健福祉教育が一体となって取り組まねばならないと説かれました。福祉の考え方も、従来の経済的に困っているから支援すると言うのではなく、生きがいを持って健康に生活することへの支援でなくてはならないと述べられました。地域保健法、母子保健法が改正され、病気を頭に置いたサービスでなく、まず健康を頭においてのサービスが提供されねばなりません。病気の早期発見から育児環境整備や育児支援へとシフトせねばならないと強調されました。感謝申し上げます。

基調講演
「病(後)児保育 - 10年の歴史と課題 -」
 東京都立母子保健院 院長 帆足 英一先生

基調講演座長まとめ
(医)保坂小児クリニック
 理事長 保坂 智子

私は帆足先生のご講演に先立ってそのご紹介をする時、先ず「先生は病児保育の育ての親である」とお話をしました。「骨太に育てていただいた」とも。そして庄司先生は帆足先生のことを病児保育の

「理論的支柱である」と仰っしゃっていると伝えました。何れにしても衆目のみるところ先生はその識見、力量とも国を興し創る資質に恵まれられ、子育てと仕事の両立支援という新エンゼルプランの中でも再度その基本的構想の中の一つと確認された乳幼児健康支援一時預り事業(病児保育事業)の10年の歴史と今後の課題をお話し

いただくのに何よりふさわしい演者であり、得難い記念講演をいただいたと思います。

ご講演は先ず病児保育の黎明から始まり、働く母親達がわが子の病気の時にもよき保育を(望みうれば看護も)と願って始められた病児保育が本格的に国の事業になるまでを解説されました。続いてあくまで制度としての病児保育の実施主体は市町村であること、そのために市町村がすべきことを力説されました。又、医師とのかかわり、医師会の理解と協力が不可

欠なこと、補助金の改善について等明快に話が進められました。保育の様々な形については、とりわけ保育所型の保育についての諸警告が述べられ、改めて保育看護の専門性についてその必然性が指摘されました。病児保育室が今後地

域において出来る子育て支援については、保育所（園）等における保育士、看護職等の病児保育の研修や父母への家庭看護講座などが上げられました。以上、何れにしても今、私達は病児保育学と言えるものが帆足先生の手によって確

実に育っていると思うことが出来ます。私に同行して当日の記念講演会に参加した父母の一人が帆足先生のご講演に「目のさめる思いがした。その一言一言が胸に響き心に滲みだ」とその感動を語っていたことを併せて報告します。

教育講演

「子どもの心の健康を考える」

社会福祉法人五豊会 理事長 豊永 せつ子先生

教育講演座長まとめ

野澤 医院

院長 野澤 良美

紅葉の美しい季節となりました。「全国病児保育協議会 10 周年記念の講演会」も無事終了、会員の皆様と共に楽しいひと時を御一緒できました事、心より嬉しゅうございました。

最近の青少年の殺伐としたニュースを耳にする度に、保育に関しましては深く考えさせられる事も

多いかと思われま。子どもにとって何が幸せなのか、大人が考えていることとは必ずしも一致しない事もあるかと思ひます。

日々健康に、思う存分活動できる環境と、決して強制的でない抑圧のないのびのびとした過ごし方ができ、危険を伴わない生活「心配り」が最も理想的と考えます時、福岡県の豊永せつ子先生の社会福祉法人 五豊会 のぞみ愛児園の日々のご様子をスライドを交えながら拝見することで、まさに理

想郷としてうかがい知ることができました。

ご父兄の皆様方のご援助「庭の大工仕事、庭造り」などや、保育士の皆様方の優しい心配りなど、まさに素晴らしい保育の実践者でいらっしゃるかと拝見することができました。

どうぞ今後とも園児の皆様方、心身ともにすこやかに過ごされま。すよう、またお怪我などないようにとお祈り申し上げます。素晴らしいお話をありがとうございました。ますますのご発展を、心より祈り上げます。

以上、ご報告とさせていただきます。

特 **10周年記念分科会** **集**
 ~ 第2日目分科会より ~
 各分科会のまとめ

第1分科会まとめ

ポケット病児保育室 保育士 島村恵美子



第1分科会はテーマが「保育士のための看護知識」ということで、53名の参加者のうち45名が保育士、4名が看護婦、4名が他職種という参加者のもとで開かれました。

3名の発題者がそれぞれの保育室の立場から保育士はもとより、保育室全体で押さえねばならない看護知識を発表しました。

最初は昭和44年開設の大阪、枚方病児保育室から予約を取る際の難しさが話されました。子どもの状態が急変する危険性があの条

件が重なり、予約を断ったことが結果的によかったということでした。30年という歴史をもちながら事故が起こることなくきたのは、病児を預かるという認識と、日常の保育はもちろん、予約も徹底してルールを守り丁寧に慎重に行われているからだと思ひさせられました。

次に宮崎、赤ちゃん広場より開設から現在までの5年間の利用状況の細かな看護のポイントが話されました。周辺にもいろいろな型の病児保育室があり、横の情報交換が出来やすく羨ましい限りでした。

最後に山口、すくすくハウスよ

り保育士の病院内研修の様子から、今後私たちの課題となる地域の子育て支援としてのあり方まで、実践をまじえて話が出されました。医療機関併設型ではこんなに学習できる場が近くにあるのに利用しない手はないと感じました。

看護知識の最も基本となる保育室での与薬時の3つのポイント「何の薬か？ どういう効果か？ 何のために飲ませているのか？」の再確認、感染経路は何の病気がどう感染するのかきちんと把握しておかねば環境整備は出来ないことなど助言者の帆足英一先生より話して頂きました。現状に甘んじることなく日々、学習する場を見つながら専門性を身につける大切さを痛感させられ終了となりました。

第2分科会まとめ

藤本小児病院 看護部長 大井 洋子



3名の発題後、参加者の方々の自己紹介や質問・意見を頂きました。

松川先生は、保育園の子どもたちの鼻水の培養結果から、保育士さんが自主的に5項目の対策を実施した後の培養結果と比較した成績を示し、家族に対しては予防接種の必要性の啓発が重要であること、病児室のスタッフも感染に対して意識を高めることなどの発題でした。

伊藤さんは、施設で実施している消毒内容を具体的に説明し、次に実際に自分たちが経験した事例を報告し、1年間の病児室利用者の中で、医師が入室時に隔離を指示した人は15.8%、入室後の症状変化で、実際に隔離室利用したのは19.6%であるということから、入室後の症状の変化を見逃さないことが大切との発題でした。

水谷先生は、感染経路を3つに

分類しそれぞれに具体的病名を挙げ、その対策について話されました。煩雑な方法で、実行するのに時間や手間がかかるのでは長続きしない、基本的なことを具体的にあげ確実にやる事が大切であり、病児室のスタッフ教育も必要だけれど保護者への教育も大切であるとの発題でした。

すぐにでも各施設で利用できるよう、具体的な消毒方法、隔離方法や日常の感染対策についての資料が「研修会誌」に掲載されています。発題の方々のご自分の施設を紹介し説明されたので、参加者の方々は自分の施設と比較し、建物の構造上、感染室に行くのに一般の保育室を通らなければならない時、注意することは何か？感染が複数のときは隔離部屋が足りないがどうしているか？病後児の判断基準はどういうものか？など現場での疑問や質問がなされました。

また最近病児室に勤務し始めた

看護婦さんは、家族の心配することと、自分が説明する内容に「ズレ」を感じるという意見があり、伊藤さんから地域に働くことの意味と家族としての体験をお話し頂き、家族の疑問や要望にまず応えることが必要であるとのご意見を頂きました。

時間が不足して、最後あわただしくなりましたが、今すぐに現場で実行できる具体策を学ぶことが出来、現実的な問題について話し合えたと思います。

しかし、感染室への通路に、一般の保育室を通ることに関しての討議が十分に出来ず、分科会終了後助言の池田先生に、隔離（麻疹・水痘・ムンプスなど）においては確実に空気の遮断が必要であり、一般の病児とは接触しないように動線を配慮すべきとの意見を頂きました。構造上それが不可能ならば、感染は受け入れできないことを明示することが、安心できる「病児保育室」であり、今後さらに病児保育協議会で討議すべき課題であると考えます。

第3分科会まとめ

エンゼル多摩 代表 池田奈緒子



第3分科会は、52名の参加者を得、保育所併設型として大阪市の「のんたんルーム」、医療機

関併設型として大分市の「キッズケアルーム」、単独型として川崎市の「エンゼル多摩」から、それぞれ発題がなされました。

いずれの施設も開設から6~10年を経ており、記録物等にもある程度の変更・訂正がなされた経過があるため、新規開設施設にはこれからの道しるべとして、又何年か経た施設には共通点・相違点の対比材料として、有意義な分科会であったと思われます。

どの施設においても、記録物

は、1.短時間で簡単に記入できるものである事、2.保育士・看護婦・医師等によって散在する事なく、全職種で共通理解が得られるものである事、3.正確な記録である事、が大切であるとの共通点がありました。

施設毎では、受け入れ時に口頭で問診をしている所は、話を引き出していくと保護者が忘れていた事や保護者とは別の視点でのチェック項目などが見出され、保護者と保育士の間で共通理解が得られる事、又一方始めの問診を記入方式で受けている所では、保護者が記入に際し、知りたい事・気になる事を無意識のうちに重点的に書く事から、お迎えの時にそれに答えて連絡表が書け、役立つ記録と

して残るという事がありました。

又個々の子どもの登録票・個人記録表をファイルする際、けいれん既往、食物アレルギーの有無等により、色付きファイルを使用する等、二重チェックがかかるようにしている点は参考になるとの意見もありました。

助言の保坂先生からは、どの位回復したかの保護者への伝え方等、長年の経験からの貴重なアドバイスを多々頂きました。施設形態、定員等により記録の重点項目に多少の違いがあると思われませんが、最低限必要な共通項目をきちんと把握・明記した、それぞれの施設毎に使い易い記録物を作成していく事が大切と思われました。

又、記録物は固定的なものではなく、分かりやすいか・使いやすいかを随時確認し、保護者からの要望も取り入れて、常に見直しをしていく必要があるというのがす

すべての発題者の共通意見でした。
 一方で、今後補助受託施設も増え、行政への報告義務も生じる

事や、協議会での統計資料の作成等も見据えて、全施設共通の報告フォーマットも必要になってくる

と思われ、是非協議会としてのパソコンプログラムを作成してほしいとの要望も出されました。

第4分科会まとめ

淑徳短期大学講師 帆足 暁子

平成12年度から補助金受託が開始された保育所型の病（後）児保育の分科会は32名の参加者で活発な質疑が行われました。様々な課題を抱えている中でも、医師との連携が難しいことが挙げられました。保育所で病後児といっても保育を行うことに医師が反対、基準が明確ではないため、病児保育室利用書を医師に書いてもらえない等が訴えられました。また、病児（後）保育室のPRの方法として、毎年度に全保育所や開業医等に保育室のパンフレットを配布することや、母子健康手帳への記載を依頼すること、現在行われている「保育室便り」に利用者の感想等を載せて活用することや、その事務経費補助枠の確認の必要性

についても話し合いました。その他、嘱託医・協力医等との文書による連携体制、人件費の増額要望や地域の保育・看護ボランティアスタッフの活用、地域に在る他タイプの病児保育室との連携をとる意義、事故が起きた時の責任の所在等、山積している課題の多さを感じさせられました。しかし、一

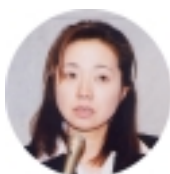
番大切なことは、病児・病後児保育室を必要としている親子にとって、どのような支援ができるかという視点であり、それを抜きにしてはこの事業自体が成り立たないということをお忘れてはならないと思います。

今回の分科会を通して、保育所型の病児（後）保育室の受け入れ基準を明確にすることや、今だ山積している課題について討論し、整理する場を設定する必要性を強く感じました。



第5分科会まとめ

東京都立母子保健院 婦長 中山 恭子



第5分科会は「病（後）児保育の自己評価」というテーマで開催されました。これは、今回の研修会であ

らたに取り上げられたテーマで、まだ（案）の段階のものです。この研修会のためパイロット事業として事前に22施設に配布・回答をいただき、その中の医療併設型2施設、乳児院併設型2施設、単独型1施設、保育所併設型1施設の方に発題していただき、病児保育室自己評価基準（案）の作成を担当した平田ルリ子先生を助言者に30人を越える参加者で行われました。

各施設の発表の中では、すでに独自の自己チェックシートを作成して実施している施設などもあり、全体としては自己評価を行うことにより課題や問題が見えてきて自分自身を振り返る機会になり、スタッフ間の意見交流ができたという意見が多く聞かれました。

質疑応答では自己評価を行う目的について質問があり、平田先生のほうから、補助金の制度も出来たなかで各施設の質の平等を求め、平成12年度5月に調査研究委員会がその第1案としてこの病児保育室自己評価基準（案）を提示・実施された事の経緯の説明と、この分科会を受け今後さらに検討を重ね年度末には第2案が作

成・提示される予定とのお話がありました。

活発な意見交換が行われ、各病児保育室の現状と悩みが次々と出されていました。その中でも各関係機関・行政・医師会との連携や無理解など自分たちだけでは解決できない問題については、この自己評価基準を利用して各機関の理解を得る方法やその方たちに研修会に参加してもらう方法などの意見も飛び出しました。また発題者の方からは経験を生かした助言も出て、お互いに大変なのだから明日からも子どもたちのために頑張ろうと充電していただけたのではないかと思います。



第6分科会まとめ
四日市市病児保育室カンガルーム 施設長 二宮 剛美



第6分科会「新規開設のための何でも相談Q & A」では、これから開設しようとする人を

中心に例年のように多数集まりました。

広島県 増田宏様、滋賀県 高橋良明様、新潟県 塚田次郎様から、開設にあたり苦労したところや、注意を要したりまだ解決できない問題点を、医師会や地方自治体との関係を中心に発題していただき、一気に議論が盛り上がりました。

会長 藤本保氏、副会長 野澤良美氏、同じく副会長で研修委員長の向田隆通氏、常任協議員で今回の研修会事務局宮田章子の諸氏から、時に優しく、時に厳しい助言をいただきました。発題者も助言者となり、予備知識が少なく参加された方からも質問が出て、なごやかな中にも活発に意見が飛び交う分科会になりました。

できたらいいな なんでも相談 Q & A 集 新規開設に限らず
 さらに一步踏み込んだ議論ができます。

増えたらいいな 研修会への参加者 特に事業実施主体の市町村関係者

実施主体としての意思や向上意欲を持っていただいて一緒に研修しましょう。

いただけるといいな 心ある優良施設に 補助金を

反対語はなんでしょう。少し長くなりますが

心もなく研修にも参加されない施設に だらだらと補助金を

むつかしい学会のイメージでなく、誰でも参加できてなんでも相談できる研修会に今年も参加することが出来ました。全国病児保育協議会の発足以前から、あるいは発足させ 10 年間努力を重ね社会的評価を得ながらルールを敷いてくださった先駆者の方々のおかげです。参加者の一人としてここから感謝します。



10周年記念研修会を終えて

-ご参加ありがとうございました-

全国病児保育協議会 10周年記念研修会事務局長

みやた小児科院長 宮田章子

10周年記念研修会も、無事終了した今はやっと肩の荷が下りた気持ちです。

記念の研修会でしたので講演は三つ、懇親会は祝賀会形式とし招待客 11 名、分科会も 6 つと例年より規模の大きいものとなりました。おかげさまで研修会 310 名、記念式典 181 名の参加をいただき盛会で終わることができました。

思えば 5 月の施設長会議のときに、事務局をやるようにとのお話をお受けしてからの約 5 ヶ月は試

行錯誤の毎日でありました。計画立案、スケジュール調整、各関係の方への連絡、広告取り、文書の作成、発送などなど、いまを振り返ると不慣れな仕事が多く、皆さんにご迷惑をかけました。しかし周りの方々のご協力のおかげで成功裡に終わったことは感謝に堪えません。とくに東京近郊の方々にはいろいろと援助いただきました。実行委員会の皆様にもお礼申し上げます。

今後は、加盟施設が増えるにつ

れて研修会もだんだん規模の大きいものとなっていきますが、協議会としての活動はこの研修会が 1 つの大きな柱となります。

ますますの内容の充実をはかり病児保育に従事されている方々の研修の場になりますようお願い申し上げます。最後に身内のことではありますが、様々な雑用と酷使！？に耐えてくれたみやた小児科のスタッフに感謝します。

- 新規加入の全国病児保育協議会施設 -

- 164 (医社)あさひクリニック
「病児ケアハウス キッズあさひ」
理事長 藤原 敏典
〒757-0002
山口県厚狭郡山陽町大字郡 445-5
TEL : 0836-71-0148 FAX : 0836-71-0149
- 165 病後児保育園 タムタム
理事長 谷村 聡
〒746-0009
山口県新南陽市川平 1 丁目 7-13
(医)たにむら小児科
TEL : 0834-64-3030 FAX : 0834-61-1444
- 166 つくしんぼ
理事長 松本 文六
〒879-7761
大分県大分市大字中戸次 4528 (医財)天心堂
TEL : 097-597-0050 FAX : 097-597-0050
- 167 いなさこどもデイケア「ボン クラージュ」
理事長 遠矢 芳一
〒852-8002
長崎県長崎市弁天町 16-7 (医)平野医院内
TEL : 095-861-1213 FAX : 095-861-1210
- 168 ペルソナ
理事長 芳村 信
〒790-0043
愛媛県松山市保免西 1 丁目 2-1 吉村小児科内
TEL : 089-971-0800 FAX : 089-972-4776
- 169 善通寺市立子育てプラザ 21 病後児保育室
園長 山本 幾代
〒765-0014
香川県善通寺市生野本町 2 丁目 16-1
TEL : 0877-62-3695 FAX : 0877-62-3665
- 170 さわだクリニック 病後児保育室 こひつじ
院長 沢田 陽子
〒577-0802
大阪府東大阪市小阪本町 1-11-3
TEL : 06-6720-0721 FAX : 06-6724-3224
- 171 (社)浅舞感恩講保育園
園長 伊勢 哲郎
〒013-0105
秋田県平鹿郡平鹿町浅舞字浅舞 221-1
TEL : 0182-24-1148 FAX : 0182-24-3745
- 172 (社)砂原母の会 砂原保育園
理事長 林 康子
〒125-0002
東京都葛飾区西亀有 4-8-19
TEL : 03-3605-0420 FAX : 03-3605-0460
- 173 あすか病児保育所
副院長 高橋 真弓
〒731-0103
広島県広島市安佐南区緑井 2-12-25
高橋内科小児科医院内
TEL : 082-879-3143 FAX : 082-879-3190

- 174 うさこちゃん
理事長 東 タツエ
〒899-2504
鹿児島県日置郡伊集院町郡 2056-1 あづま保育園
TEL : 099-273-1277 FAX : 099-273-1277
- 175 ケアステーション・所沢
理事長 桑原 哲也
〒359-1106
埼玉県所沢市東狭山ヶ丘 6-2823-13 (社)桑の実会
TEL : 042-921-1165 FAX : 042-921-1166
- 176 (社)興津福祉会 ふたば保育園
園長 加藤 智雄
〒424-0204
静岡県清水市興津中町 1422-1
TEL : 0543-69-1902 FAX : 0543-69-2412
- 177 藤枝小児科
理事長 藤枝 俊之
〒799-0405
愛媛県伊予三島市中央 2 丁目 3-8
TEL : 0896-23-5864 FAX : 0896-28-1371
- 178 にしむら小児科
理事長 西村 龍夫
〒582-0021
大阪府柏原市国分本町 3-9-3
TEL : 0729-78-6597 FAX : 0729-76-1186
- 179 (医)かわむら小児科
院長 河村 一郎
〒745-0006
山口県徳山市花畠町 4-3
TEL : 0834-32-0535 FAX : 0834-32-0535
- 180 (医)敬和会大分岡病院
病児保育センター ひまわり
理事長 岡 宗由
〒870-0105
大分県大分市西鶴崎 3 丁目 6-6
TEL : 097-522-3187 FAX : 097-522-3187
- 181 わたなべ小児科医院
医師 渡辺 あゆ子
〒981-3132
宮城県仙台市泉区将監 4-18-3
TEL : 022-372-7007 FAX : 022-372-7007
- 182 山口小児科内科
院長 山口 義哉
〒158-0091
東京都世田谷区中町 4-35-6
TEL : 03-3702-6180 FAX : 03-3702-6180
- 183 下関市わかば病児保育所
園長 新田 由有子
〒750-0059
山口県下関市汐入町 44-10
TEL : 0832-33-0548 FAX : 0832-33-0548

新規加盟施設紹介は 8 ページにも掲載しています。

通信欄

会員の皆さまからのお便り・質問等をFAXでお送り下さい。直接回答させていただいたり、ニュース等に掲載させていただきます。送付先：FAX 0422-49-9752 広報の帆足まで。

病児保育室名： _____

お名前： _____

必携

全国病児保育協議会編（帆足英一監修）

「新 病児保育マニュアル」完成

病児保育に従事している保育士・看護婦必携の「新 病児保育マニュアル」が完成しました。是非、一人一冊手元においてご活用ください。

病児保育を展開していく上での「保育看護」の専門性をいかに高めればよいか、その具体的な内容が記述されています。

協議会加盟施設の場合

1,500 円 (+ 送料)

その他の場合

2,500 円 (+ 送料)

申し込みは全国病児保育協議会事務局まで

「子どもの会話コーナー」を連載中！
病児保育室で繰り広げられる子ども達のほほましい光景大募集しています。

<協議会ニュース 編集事務局>

〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町1の19の2
帆足 暁子 宛

FAX 0422-49-9752

E-mail ehoashi@parkcity.ne.jp

新規加盟施設紹介7ページからの続き

184 病児保育ゆりかご園

園長 赤井 留美江

〒260-0843

千葉県千葉市中央区末広 2-12-14 るみえ内科

TEL : 043-261-8810 FAX : 043-261-8810

185 城東こどもクリニック

院長 松原 徹

〒036-8092

青森県弘前市城東北 4-4-20

TEL : 0172-29-3111 FAX : 0172-29-3112

186 小坂こども元気!! クリニック / 病児保育室

院長 小坂 和輝

〒104-0052

東京都中央区月島 3-30-3

ベルウッドビル 2 3 4F

TEL : 03-5547-1191 FAX : 03-5547-1166

187 ちっこハウス

施設長 薬師寺 道明

〒833-0041

福岡県筑後市大字和泉 917-1

TEL : 0942-52-2577 FAX : 0942-52-2577

188 病児保育 ウッピールーム (仮称)

院長 兎 満

〒603-8452

京都府京都市北区衣笠開キ町 190-1

兔小児クリニック

TEL : 075-462-3111 FAX : 075-462-3321

これ以降の加盟施設は次号で

全国病児保育協議会事務局

〒870-0943 住所：大分県大分市大字片島 83 - 7 藤本小児病院気付

担当：伊東 美紀・森川 茜

電話：097-567-0050 (代表) FAX : 097-568-2970